

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Autumn 2017

Vol.19

特集

海外の人形劇フェスティバルを訪ねて フランス シャルルヴィル・メジェール、台湾 雲林 編

Dogushi 2017年11月発行 発行：人形劇のまち飯田運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター 〒405-0044 長野県飯田市中町1-2 TEL0503-583-3594 FAX0503-583-3594 E-mail: itida-puppet-center@misjams.or.jp

掲示板 いいた人形劇センター からのお知らせ

人形劇定期公演を観て スタンプを集めよう!

飯田人形劇場を会場に開催される「人形劇定期公演」。平成27年10月から回を重ねること15回。小中学校の人形劇クラブや市民劇団、いいた人形劇センターの人形劇講座受講者が日ごろの活動の成果を発表しています。

今年4月からはスタンプカードがスタート。定期公演を観劇するとスタンプを1個もらえ、3個集めると専門劇団の公演を優待価格で観劇できるなど、ステキな景品と交換できます。ぜひ、友人や知人、ご家族お誘い合ってお出かけください。上演劇団も随時募集中です。

- 今後の予定
12月17日(日)、1月20日(土)
2月25日(日)、3月3日(土)
- 料金
200円(3歳未満無料)
- 問合せ
いいた人形劇センター
☎050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

夏のいいた人形劇フェスタが終わると同時に、飯田の人形劇は来年までお休みのな...と思っている方多くありませんか。毎月、いや毎週のように飯田下伊那のあちこちで、プロ・アマの人形劇公演や参加体験型のワークショップ、人形アニメーション上映など人形劇にまつわる催しが行われているんです。こんな日常は「人形劇のまち飯田」だからこそ。来夏開催される「世界人形劇フェスティバル」では観劇はもちろん、こんな飯田の日常を世界に発信できたらと思うのです。

次号は1月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子

View of IIDA



飯田市川本喜八郎人形美術館の開館10周年特別企画として開催された「懐かしのテレビ人形展」。ひよっこりひょうたん島、新・三銃士、シャーロックなど、新旧の人気モノが勢ぞろい。なかでも40、50代の方々にとって思い出深い『プリンプリン物語』。

人形制作を担当した友永詔三さんが会期中に同美術館を訪れ、当時の制作秘話を披露。来場者はプリンプリンの人形を操作したり、記念撮影をして、特別な時間を過ごしました。

わかる!! 人形劇用語

『三人遣い』

三人の人形遣いで一体の人形を遣う日本特有の人形操法です。飯田の黒田人形や今田人形、そして先ごろ台湾公演を行った伊豆木人形もこの操法で演じられています。このスタイルの最も有名な座の名前が「文楽」でしたので、このスタイルを文楽遣いと呼ぶ場合もあります。

う人形の頭部から出た棒を、人形の背中から差し入れた自分の左手で操作しながら、自分の右手で人形の右手も操作します。左遣いは、人形の左手を指金という人形の肘から伸びた棒を使うて操作します。これは自身の右手で行われます。その他に、小道具の扱いは担当します。足遣いは、もちろん両足を遣います。男の人形には足がついているのですが、女の人形には実際には足がなく、着物の裾の動きで人形の足を観客に想像させます。この裾さばきが黒田と今田では違うそうですので、見比べてみるのも面白いかもしれません。



三人で息を合わせて遣うことはもちろん簡単ではありませんが、上手く遣えれば繊細な感情表現や美しいフォルムを作り出すことが可能です。地元にある素晴らしい文化財をぜひ生で、ご覧ください。(人形芝居燕屋くすのき燕)

海外の人形劇フェスティバルを訪ねて フランスシャルルヴィル・メジエール、台湾雲林編

日本では芸術の秋といわれるこの季節。飯田市と友好都市のフランスのシャルルヴィル・メジエール市、いい大人形劇フェスタと友好提携を結ぶ台湾の雲林縣で開催されたフェスティバルの様子をレポートします。



シャルルヴィル・メジエール市庁舎前のデュカル広場

フランス シャルルヴィル・メジエール編

飯田文化会館館長 宮沢正隆

9月22日から24日まで、AVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)の総会に出席する牧野光朗市長に随行して、飯田市と友好関係にあるフランスのシャルルヴィル・メジエール市を訪問しました。

シャルルヴィル・メジエール市は、国際人形劇研究所や国際人形劇連盟の事務局がある「人形劇のまち」で、1年おきに世界人形劇フェスティバルを開催しており、今年の日程は9月16日から24日まで、終盤の賑わいを体感しました。フェスティバルの中心は、市庁舎前に広がるデュカル広場で、100m×70mと広大な広場



目を引く屋外のパフォーマンス

には、仮設のステージやメリーゴランドなどが置かれ、様々な露店が並び、多様な人形劇

人形劇のまちの賑わいを体感

や大道芝居には子どもから大人までの多くの観客が集まり、熱気に包まれていました。また、広場の中央には土で作られた大きな顔が設置され、開いた口から様々な表情の顔などが飛び出すモニュメントが飾られ、人形劇芸術の広がりが見られていました。人形劇を観る時間はあまり取れませんが、昨年のいい大人形劇フェスタで上演した、「ヨウカイ劇場」の皆さんが我々を歓迎するために、新しい演目『POSSESSION』を追加で上演してくれました。今回の体験を、飯田での来年の世界フェスタに活かしていければと思います。



ショーにはAVIAMA参加の15都市のパンネルを展示。飯田のパンネルと牧野市長



パンで作った人形を飾ったパン店のショーウィンドー



雲林國際偶戲節では、「三番叟」「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」を上演。5公演すべて会場は満席に

台湾 雲林編

いい大人形劇フェスタ実行委員長 原田雅弘



上演後、来場者と記念撮影

飯田市三穂の伊豆木人形クラブの中学生たちと、台湾の雲林縣で開催された雲林國際偶戲節に参加してきました。

江戸時代から受け継がれてきた伊豆木人形ですが、一度途絶えたものを、地域の皆さんの努力で復活させ、10年前にクラブが発足しました。

現地では、雲林布袋戲館を会場に5回の公演を行い、どの回も立ち見が出るほどの盛況で、子どもたちにとって得がたい経験となったと思います。上演終了後には、写真撮影を求める

地元の伝統人形芝居を中学生が熱演



雲林布袋戲館の前で記念撮影

お客様が引きも切らず、子どもたちは戸惑いながらも嬉しそうな表情で応じていました。オープニングセレモニーでは、各国からの招待劇団と互してパフォーマンスを行い、歓迎パーティでは雲林縣長さんとプレゼント交換を行うなど、「人形劇のまち飯田」の代表として、堂々とその役目を果たしてきました。この経験が、伊豆木人形クラブの今後の活動や、参加した一人ひとりの心の中に大切な経験として残ってゆくことを願っています。



雲林國際偶戲節のメイン会場入口

大衆芸能と呼ばれたい

ヨシダ人形劇

吉田 貴志



「モノもあればちよいと残念

次号は「マーガレット一家紙芝居のたっちゃんです

ヨシダ人形劇の旗揚げ前、人形劇団京芸在籍時から数えると20回ほど「いっだ」に来ていることになりま

第8回 すべての道は飯田へ通ず



2014年開催の春の人形劇まつり(飯田市川本喜八郎人形美術館)で上演後、子どもたちに囲まれる「はむにょ!」の人形とヨシダ人形劇

なモノもある、そんな当たりハズレも含めて楽しむ度量やおおらかさがあってこそ、娯楽は娯楽としての意味をもつのではないのでしょうか。飯田では人形劇をひとつの舞台芸術として高く評価してくださ

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑯

『PUCK No.1(創刊号)』

シャルルヴィル・メジェールにあるIIM(Institut International de la Marionnette/国際人形劇研究所)発行の人形劇研究誌。「バック」は欧米で道化の代名詞。不定期刊だがワークショップと連動したあらたな人形劇表現の展開で大きな功績あり。IIMは出版だけでなくESNAM/国立人形劇高等学院と国際人形劇図書館を運営している。この創刊号の1988年は、人形劇カーニバル10年、UNIMA世界人形劇フェスティバルの開催、シャルルヴィル市と友好都市提携と、飯田が「人形劇のまち」へと大きく踏み出した年でもある。そこから30年、飯田もこうしたフェスタだけではない人形劇を模索中だが…。

(人形劇の図書館館長・瀧見英明)



IIM/国際人形劇研究所(フランス) 1988年

突撃!!

人形劇のゲ・ン・バ Part15

間もなく成果発表 人形劇講座 初級コース



「人形の目線を意識して」。くすのき燕さんに指導を受ける劇団すずらんの方々。作品は「おおきなかぶ」



発表会で歌う「ひとりぼっちの羊飼いにあわせ人形を制作。「人形と揃いの衣装で歌うのが待ち遠しい」と話す塩澤さん(写真中央)



この講座で出会った子育て中のお母さん2人が、おなじみの絵本「ぐりとぐら」に挑戦。「子どもたちに喜んでもらえるかわいらしい作品にしたい」と話す木下さん(写真左)、佐藤さん



「手が震えちゃう」と、人形に目を書き入れます

5月から始まった初心者対象の「人形劇講座初級コース」。10月に入り、人形制作と稽古に熱が入る「ゲンバ」をおさえるべく、直行了しました！平成26年度から毎年開催される「初級コース」。これまで7グループが作品を制作・発表してきました。今年度は飯田下伊那から12人が受講。3グループに分かれて作品づくりに励んでいます。譲り受けた人形を使って自己流でやってきたけれど、プロの指導を受けて作品がくれたらと思うていた。繰り返し上演できる自慢の作品になりそう」と話すのは、阿智村の劇団すずらん代表・能谷さん。また、塩尻のコーラスサークル郷原ハモロー会の塩澤さんは、秋の発表会で歌う曲にあわせて人形を動かしたいと受講。広い会場でも見栄えがするよう腰まである大きな人形をつくりました。それぞれの作品は人形劇定期公演で上演。12月は劇団すずらん、郷原ハモロー会が講座の成果を発表します。

わくわく イベントスケジュール

人形劇in丘のまちフェスティバル

11月3日(祝) 10:30、12:30、14:30
会場/川本喜八郎人形美術館 料金/無料
出演/P.ことり座
上演時間1分、定員2名の日本一小さな人形劇を1時間繰り返し上演

ハンドパペットをつくろう!

11月14日(火) 14:00~17:00、19:00~21:00
会場/飯田文化会館 料金/無料 申込必要
ハンドパペットをつくり、被災地の子どもたちに届ける支援活動

森のぼかほかクリスマス

12月3日(日) 10:00~16:00 会場/かごこし子どもの森公園
料金/1,000円~(人形劇公演のみ800円)
出演/人形劇団むすび座「どんどこもんちゃん」ほか
人形劇公演のほか、クリスマスリースやピザをつくる体験を組み合わせたスペシャル企画

人形劇定期公演

12月17日(日) 10:30開演
会場/飯田人形劇場 料金/200円(3歳未満無料)
出演/劇団すずらん、郷原ハモロー会、わたちゃんのほのぼの劇場
ましゅ&Keiのクリスマス会

12月23日(祝) 昼の部 15:00、夜の部 19:00

会場/川本喜八郎人形美術館
料金/昼の部 500円、夜の部 2,500円
ましゅ&Keiがゲスト山本光洋を迎えて繰り広げる愉快なステージ
初春を寿ぐ竹田人形節

1月6日(土) 会場/竹田人形館
出演/竹田人形座 鈴木友子・竹の子会 ※有料

人形劇定期公演

1月20日(土) 会場/飯田人形劇場
出演/人形劇団「寺小屋」、人形劇団かごこしののはな ほか
料金/200円(3歳未満無料)



それぞれの人形を間近で見たり、動かしたり、多くの来場者でにぎわった

かざこし子どもの森公園に 巨大人形劇「さんしょううお」登場!



サンショウウオの頭を動かす体験は子どもたちに大人気



風の広場のトンネルに潜むサンショウウオの前で双子のタニシがデモンストレーション

8月のいい大人形劇フェスタ2017で完成版を上演し、4公演で約2,000人を動員した「巨大人形劇 さんしょううお」。飯田下伊那の市民が2年かけて制作した巨大な人形を間近で見て、触れられる催し「さんしょううおスペシャル!!」が10月7日・8日に飯田市かざこし子どもの森公園で開催され、二日間で約2,200人が来場しました。



劇中に登場する「水中生物」をつくる体験コーナーも人気。完成後、外で飛ばして遊ぶ子どもたち



エビの人形を動かしてみた女の子「色がとってもかわいい!」



巨大人形劇「さんしょううお」の監督、沢則行さんの人形劇小作品集上演では会場が笑いの渦に



「さんしょううお」と「ましゅ&Kei」のコラボレーションが実現



カラフルな色と独特の模様が特長のカエルの長老



カニの大きなハサミを動かしてみる親子「工夫して作ってあるなあ」

巨大人形劇「さんしょううお」再演に向け参加者大募集!

2018年8月、飯田市で開催される「世界人形劇フェスティバル2018」での再演に向け、参加者を募っています。演じてみたい、裏方スタッフとして参加したい、人形・舞台美術の制作をしたいなど、作品に興味のある方はぜひご連絡ください!

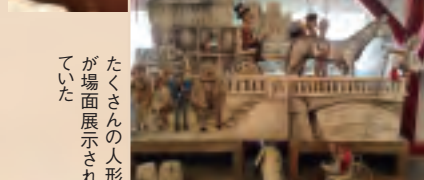
問合せ / いい大人形劇センター ☎050-3583-3594



サンショウウオ、カエル、エビ、イワナ、カニのキャラクターのぬりえを楽しんだ



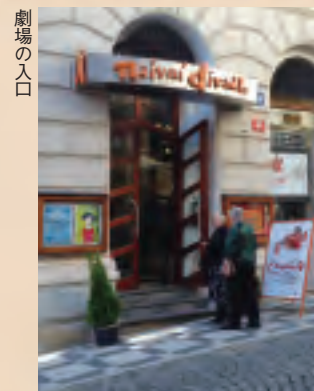
メイン劇場の壁には過去の作品名がずらり



たかさんの人形が場面展示されていた

劇場の壁面には創立以来上演した作品名を記したおしゃれなプレートがびっしり並び、この劇団の歴史を物語っています。1972年からは隔年でマゼンカ人形劇フェスティバルを開催。「マゼンカ」とは、マテ(母親)+ジンカ(子ども)の造語で、このフェスティバルが親子を対象としたものであることを表しています。フェスティバルはコンペ方式で、最終日、華やかに授賞式が行われます。ヨーロッパではコンペ方式がとても盛んです。2009年には、くすのき燕氏演出『Four seasons』が最優秀演技賞を受賞しました。

来年2月21日にはナイブニ人形劇場が来日し、「空から来た羊」が飯田人形劇場で上演されます。楽しみですね。



劇場の入口

ナイブニ人形劇場は1949年創立、現在劇団員は33名。250席のメイン劇場の他に、公演もできるスタジオが2つ、劇団の人形の展示室、アトリエなどを備えています。

ナイブニ人形劇場 (チエコ、リベッツ市)

事務局長 ● 松澤 文子

日本ウニマ通信
世界みて
ある記 ⑦